消防団と連携した地域防災の活性化に向けた取り組み

キーワード　地域防災、多世代交流、ロールモデル

○取り組んだきっかけ

毎年12月第1日曜日は、「地域防災の日」に定められており、静岡市内各地で防災訓練が開催されます。この度、静岡市消防団清水第13分団からの依頼を受け、日ごろから医療を学ぶ健康科学部（看護学科・静岡理学療法学科）生が地域防災力の活性化に向けて、地域で開催される防災訓練に参画することは、教育的観点からも重要と考え、取り組みに至りました。

○活動の目的

1．地域防災の活性化に貢献すること
2．医療従事者の倫理観を養うこと

○具体的な内容

2022年12月4日（日曜日）に有度地区（静岡市清水区）の楠自治会館で開催された防災訓練にて、健康科学部（看護学科・静岡理学療法学科）の学生有志6名が救命訓練の講師を務めました。防災訓練に参加された100名以上の地域住民に対し、傷病者発見時の手当の手順やAEDの使用方法、上肢負傷時の固定方法について、実演を交えながら説明しました。その後、実際に参加者にAEDの操作を体験していただいたり、質疑応答、意見交換を行いました。

○期待される効果

1．地域防災の活性化（地域側）
多世代交流の力によって、地域防災力の向上が期待されます。大学生が地域防災に参画することは、より若い世代にとってはロールモデル効果が期待でき、今後の地域防災との向き合い方に関する教育的要素を含む機会になると考えられます。

2．医療従事者としての倫理観の向上（学生側）
参加した学生は、在籍する看護学科・静岡理学療法学科で医療（救急医学や災害医療を含む）を学んでいます。さらに、今回の防災訓練に向けて静岡市消防局が主催する救命講習の受講や大学での打ち合わせと練習を重ね、防災訓練に必要となる救命救急の知識・技術の向上に励みました。学んだ医療をどう地域へ還元するか、難しさとやりがいを体感し、医療従事者としての倫理観を養うために重要な経験になると考えます。

教員名　：内田 全城
所属学部･学科：健康科学部･静岡理学療法学科
職位　：准教授

連携先
静岡市消防団清水第13分団
有度地区連合自治会